

# 人生の

# 道しるべ

あなたの悩みに答えます

森本あんり

(東京女子大学学長)

一九五六年、神奈川県生まれ。プリンストン神学大学院博士課程修了(P.H.D.)。国際基督教大学教授などを経て、二〇二三年四月より現職。著書に『反知性主義』『不寛容論』『いすれも新潮選書』など。

写真：遠藤 宏



いまは私のなかでは、宗教の役割とは「合理的な物事だけでは解決できないときの拠りどころ」かなと考えています。森本先生は、いかがお考えでしょうか。人生相談といえるかわかりませんが、ぜひお聞きしたいです。

(東京都、六十代、男性)

## 回答

Answer

ううむ。「ぜひお聞きしたい」なると言われると、嬉しくて困ってしまいます。

この手の話は、私がしょっちゅう考えたり話したりしていることなので、いったん始めるときりがありません。調子に乗って書き続けければ、「人生相談」の枠組みからはみ出し

## 相談

Consultation

私は少し前に定年退職して学び直しを始めたのですが、宗教の役割とはなんだろうと考えています。

もともとそれほど本を読まないタ

イプで、読むとしても実践的なビジネス書が中心でした。

けれど、最近は仏教やキリスト教の本にも触れるようになり、意外と面白いなと思っています。森本先生の著作も読みました。

てしまうのが目に見えている。だから困ってしまうのです。

どこから始めましょうか。そうですね、いまから四万年くらい前にしましょう。仏教やキリスト教が始まるはるか以前のことです。

じつは私も最近読んだばかりの本で、相談者にもぜひお勧めしたいのが、『人類と神々の4万年史(上下)』(河出書房新社)です。

なぜ四万年前なのか。そのころ、人類が大きな知的飛躍を遂げたからです。

当時のヨーロッパは氷河期でしたが、その地層からマンモスの牙を彫ってつくられた精巧な彫像が出土しました。その像は、人間の胴体の上に大きなライオンの頭が載っています。

す。つまりそれは、この世に存在しない生き物の像なのです。

生きるのに精一杯だった彼らが、なぜそんなものをつくったのか。同じ地域からは、日常生活に使われたのではない装飾品や楽器も出土しています。これらは、大昔のわれわれの先祖たちが集まって、実用目的でない何らかの儀式を行っていたことを示唆しています。

「ライオンマン」がどのような役割を果たしていたのか。過酷な環境から自分たちを守ってくれる超自然の力として崇められていたのかどうか——詳細は不明ですが、ともかくその像は誰もが不思議に思うでしょうから、どうしても何らかの説明が必要ですよ。

つまりそこには、説明を語る人と聞く人がいた。人びとは像の周りに集まって、その物語を聞いた。

ということより、その物語を聞いて共有することで、人びとは仲間意識をもった。自分が誰でもどのような存在であるかを悟り、お互いのつながりを確認し合った、ということだろうと思います。これが、「宗教」の出发点です。

## すべての人が宗教的な存在

こうして考えると、宗教は人間が想像力をもつことのごく自然な結果だということになります。目の前の現実を超えた何かを考えることは、人間の知性に固有の能力です。ホモ・サピエンスはホモ・レリギオー

スス(宗教的人間)なのです。

そういう能力をもつからこそ、人間は今日ではなく明日を生きるための計画をし、そして希望と失望を味わいます。

動物のなかで、人間だけが死を怖れます。死そのものが怖いのはありません。自分の死を予感し想像して、その可能性に怯えるのです。

要するに、人間は、物理的宇宙ではなく、それを解釈した象徴の宇宙に住んでいる。その意味では、知性をもつすべての人が宗教的だといえます。ここにいう「宗教」は、「キリスト教」や「仏教」といった名前のついた組織宗教だけのことではありません。

どんなに合理性一点張りの人で

で不条理な世界に住んでいます。コロナ感染の爆発もウクライナ戦争も、ほんの数年前には誰も予測できなかった現実です。民主主義も科学技術もそれを止めることはできませんでした。

とはいえ、宗教が何かの代替物になることはできません。とりわけ、政治や科学の代わりを任ずるような宗教は危険です。

現代人は、自然を支配する力としての呪術を拒けましたが、社会を支配する呪術にはなお囚われたままです。政治家は、この社会的呪術を大いに利用して集団の結束力を高めます。だからアメリカでは、民主主義を破壊する元大統領がいまなお政界を牛耳っており、ロシアでは、隣国

も、科学的エビデンスを備えたファ

クトだけを頼りに生きてゆくことはできません。人がそれぞれある程度の統一的な人格をもって生きるためには、世界観や人生観といった価値の体系がどうしても必要で、そういうものは目の前にある現実だけではつukれないからです。

人間が文明社会を築くようになってから出現した諸宗教も同様です。「ライオンマン」の時代とはだいぶ違った姿ですが、それぞれの宗教が表現しているのも、結局はこうした原初的な人間らしさだといえることができます。

ひと昔前までは、科学が進めば宗教は衰退すると考えられてきました。とくに、既成宗教の衰退ぶりは

を侵略する大統領が正教会の絶大な支持を受けているのです。

これらは、人間が依然として宗教的であるからこそ、警戒しなければならぬ問題です。

やっばり「人生相談」の枠組みをのみ出してしまいました。でも、定年退職して学び直しを始めるなんて、いかにも象徴の世界を生きる人間らしい生き方ですね。



顕著に見えます。

でも、世界の統計が示しているのは、どうやら違う将来です。

今後五十年で、イスラム教徒とキリスト教徒は現在よりも増加するのに対して、無宗教者の比率はむしろ低下します。霊性やスピリチュアル系など、既成の統計カテゴリーに入らない宗教性を含めると、その姿はもつと宗教的になることでしょう。

「世界が非宗教化する」というのは、西洋近代主義の思い込みです。詳細は『世界歴史(二十三巻)』(岩波書店より来年刊行予定)の拙稿をご覧ください。

宗教は科学の代わりにならない

私たちは、以前にも増して不確実

## 投稿要領

日常の相談事や悩みについて、400字詰め原稿用紙1枚程度で、住所、氏名、年齢、職業を記入のうえ(掲載は匿名)、ご送付ください。掲載分には、図書カードを呈致します。原稿は、内容を損なわない範囲で、一部を修整させていただく場合がございます。原稿は返却できません。掲載分は電子メディアや出版物などで公開する場合がございます。あらかじめご了承ください。

### 宛先

〒135-8137 東京都江東区豊洲5-6-52 NBF豊洲チャンネルフロント11階  
株式会社PHP研究所 Voice編集部 人生相談係  
メールでも投稿を受け付けております。

voice@php.co.jp